



RIKKYO SECOND STAGE

Contents

- P1 夏真っ盛りのセカンドステージ
 P2,3 清里清泉寮合同ゼミ合宿
 P4 話題の授業 P5 What's New
 P6,7 専攻科の紹介 P8 立教キャンパス散策

「立教セカンドステージ大学」は立教大学が提供する生涯学習の場です。シニア層の学び直しと再チャレンジをサポートします。



発行：立教大学「立教セカンドステージ大学」
 編集責任：笠原清志 編集長：深瀬治則
 発行日：2010年1月13日
 〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1



夏真っ盛りのセカンドステージ

立教大学理学部
 教授 上田 恵介



立教セカンドステージ大学が発足して2年目になりました。専攻科も出来て、1年生である本科生110人と2年生の専攻科生47人が、いっしょに学んでいます。立教のセカンドステージ大学が、あちこちで、はやりの市民講座やカルチュアスクールなどと異なるところは、やはりゼミがあって、1年間、受講生と教員とが密接にくっついて話が出来るところだろうと思います。ゼミは隔週ですが、その間の週にはサブゼミ（自主ゼミ）があって、教員抜きで発表や議論をし、そのあとは二次会に繰り出すというのも、ゼミの楽しいところです。

ゼミや飲み会を通じて受講生の皆さんといろいろお話ししていると、私たち大学教員などより、もっと深い人生経験を積み重ねてこられたたくさんの方々に出会います。人生には苦しいことや悲しいこともたくさんあったことでしょうし、喜びもまたいっぱいあったことでしょう。私たち教員はセカンドステージの皆さんに教えながらも、結構、いろいろ学ばせてもらっています。自らのセカンドステージを楽しませてもらっているのです。

さて、人は時間から逃げることはできません。年を取り、やがてはこの世に別れを告げます。20歳の頃には自分の死というものは、はるか遠くにあったし

がむしゃらに自分の道を突き進んでいた30代、40代の頃には、病気でもしない限り、死について考えることもなかったものですが、それが否応なく迫ってきて、「あと何年かな」と、実感としてわかってくる年代がセカンドステージです。

けれど「年取ったなあ」とか、「ボケかなあ」、「あと何年生きられるかなあ」などと、悲観することはありません。年を取るのは当たり前。ボケが来るのも当たり前と思えばいいのです。人間は死ぬときは死にます。ですからそんなことばかり考えて、残りの人生をマイナス思考で送ったって意味ありません。今年、文化勲章をもらって“柵から本マグロ”と言っていたシンガーソングライターの中島みゆきさんは「傾斜」という歌の中で、「年を取るのは素敵なことです。そうじゃないですかあ。忘れっぽいのは素敵なことです、そうじゃないですかあ」と、あっけらかんと歌っています。

ところで青春は青色ですが、ではセカンドステージは何色でしょう？春の次はやはり夏（「人生の秋」は早すぎる！）、古代中国の季節の呼び名では夏は朱（あか）、「朱夏（しゅか）」といいます（ついでですが、秋は白秋、冬は玄冬）。自分の人生を振り返り、その収穫を確かめるこの年代はまさに夏。セカンドステージは夏真っ盛り。人生のいい色に浸りませんか。（立教セカンドステージ大学運営委員）

清里の大自然に包まれ、深まった仲間との交流



清里清泉寮合同ゼミ合宿

9月11日(金)~13日(日)の日程で、夏季合同ゼミ合宿が清里の「清泉寮」にて行われました。本科生89名、教員7名が参加しました。チャプレンの講話、ゼミ担当教員の講演会、自然観察、各ゼミのパフォーマンスによる

ナイトイベント、オプションツアー等、盛りだくさんの企画、そして清里の広大で美しい自然を味わい、参加者同士の交流も深まった有意義な合宿でした。

ポールラッシュ博士の生涯

武藤チャプレンによる「ポールラッシュ博士の生涯」の紹介とビデオ鑑賞。ポールラッシュ博士の「祈りと奉仕」の理念と「DO YOUR BEST AND IT MUST BE FIRST CLASS 最善をつくせ、しかも一流であれ」の思想に感銘を受けました。



文芸講演会

千石先生の文芸講演会は、斉藤義重から始まり、三島由紀夫、小島信夫、ベンジャミン・ブリテン、武満徹、トルストイ、ドストエフスキー、永山則夫、ジャン・ジュネ、バルザックと、多岐に渡りました。ロジックで攻める小説ではなく、自分の意見を言いたくなる「読者参加型の小説」を、そして「知る人ぞ知る作家や作品」に興味をもってほしいとの講演は大いに刺激的でした。



Night Event

オープニングはみんなで歌おう「学生時代」



本科生の瀧澤由紀さんの美しいピアノの調べにのせて立教大学のツタの校舎に思いをはせながら高らかに歌いました。

佐野ゼミ；阿波踊り
今宵の始まりはお馴染みの阿波踊りで賑やかに！
全員でヨイヨイヨイ〜



笠原ゼミ；楽器演奏
ハーモニカ・リコーダ・フルートの3つが奏でる格調高いアンサンブルが心にしみました。

千石ゼミ；フラダンス Ka Pua U'i

フラの優雅なリズムにのって美男美女が踊る「Ka Pua U'i」、その意味どおり見事な「美しい花」の表現に皆うっとり!!



古賀ゼミ；歌でつなぐ戦後史



青春時代を歌ってみよう！
誰もがリズムにのってイエイ！イエイ！

佐々木・加藤・上田ゼミ；斉唱



合同チームでも青春の歌を歌う心は一つ、素敵なハーモニーが響きました。



聖アンデレ教会

清里農村センター（キープ協会の前身）最初の施設として奉納されたそうです。

地域の人々に親んでもらいたいと、ポール・ラッシュ博士が発案したという畳敷きの礼拝堂で、武藤チャプレンの講話を聞き、清里開拓の苦難の道を知ることができました。



サントリー白州蒸留所見学

樽詰めされた原酒の貯蔵庫はひんやりした冷気とウィスキーの香り、なんとも言えない雰囲気、案内嬢の説明後の試飲コーナーは水割りのウィスキーがグラスに並べられ、参加者は思い思いにグラスを空けていました。ロックを所望の人もあり、和気あいあい楽しい見学会でした。



清里現代美術館

1990年に開館した個人美術館です。自由な精神に満ちた、豊かな現代美術の世界を気楽に楽しめる雰囲気でした。



萌木の村

米国の作家ヘンリー・D・ソローの「森の生活」をテーマに持つナチュラル・リゾート地。自然と共生する「心の豊かさ」を目指しています。人気レストラン、個性豊かな工芸品店が、新鮮な空気と雄大な山並みの中で魅力的でした。



自然と遊ぼうプログラム

雨の中、レンジャーとブナの木が生い茂るキープ自然歩道に入りました。レンジャーが自然の中での遊び方をいろいろと教えてくれました。雨水を小さい容器に集めるのを競うゲームや、雨にぬれた葉っぱで透明なビニール傘を美しく変身させる遊びなど…自然は遊び道具がいっぱいにあふれているところだと再確認しました。



山崎さん；ギター弾き語り



夜空には星は見えなかったけれど心にたくさんの星が降り注いだひとときでした。

坪野谷ゼミ；セカンドステージの護身術

「イタイターッ！お手柔らかに！！」
今から役立つ防犯訓練のひとつに拍手喝采！



庄司ゼミ；紙芝居～かば君の散歩～



「カバ君、わたしも散歩に連れてって～！」と叫びたくなるような絶妙な話術に吸い込まれました。



北山ゼミ；ウクレレ合奏
懐かしさに思わずハミング。立教大学の鈴懸の径がうかびあがって、しっとりとした時が流れました。

鈴木ゼミ；60年代のポップス

遠い過去になったけれど今宵は鮮やかに甦り、懐かしいリズムに心も躍りました。



介護と看取り受講生；千の風になって



みんなの心は一つになって・・・授業は終わっても川越先生の側にいるような気持ちです。

話題の授業

米井 嘉一先生

「セカンドステージと健康長寿」(夏季集中講義)

老化のしくみを考える

「生物にとっての春夏秋冬は人生にも当て嵌まる」ことから始まって、己を知る、食育、体育、知育がテーマです。先生は、解り易くソフトな語り口ですが、講義が白熱してくると専門用語がポンポン飛び出し、椅子の上に立ち上がってのデモンストレーションありで、活発な質疑応答に受講生は体全体を耳にして聞き漏らすまいと必死でした。



3日間の講義の最終日までに「私の弱点と対処法」についてのレポートが課され、それに基づいて受講生は筋、血管、神経、ホルモン、骨の各グループに分けられ、先生の指導を受けました。「健康長寿への道のりは、年齢との調和にあり、弱点がひとつでもあるとそこから脱落するので、均質な老化を心掛けることが大事です」と。

健康を延伸することがQuality of Lifeを保つ上で大切だと痛感すると同時に、そのために生活習慣についての正しい情報を理解する力と、自分の体は自分で管理することを熟知するの必要を感じた大切な時間でした。(U、F)

健康を延伸することがQuality of Lifeを保つ上で大切だと痛感すると同時に、そのために生活習慣についての正しい情報を理解する力と、自分の体は自分で管理することを熟知するの必要を感じた大切な時間でした。(U、F)

菊池 敏直先生

「現代美術に親しむ」

講義の冒頭①おもちゃの木の円柱、②平らな皿、③ワインの空瓶、④マグカップ、⑤ガムテープ、⑥お茶用の急須各々の写真を見せられ、共通項で括りなさいとの禅問答



のような質問。皆さんはどう考えますか？答えは最後をご覧ください。現役の画家でもある先生は、絵画・芸術に関して貧弱な知識しか持ち合わせていないほとんどの受講生に対し、ダ・ヴィンチからはじまり、印象派の特徴が「筆触分割」と「視覚混合」にあることや、そこから表現主義や立体主義に発展し、さらに未来派・ダダイズム・シュルレアリズム・抽象表現主義などに繋がっていくというような西洋美術の流れを代表的な絵画を見せながら懇切丁寧に説明していただきます。果たして講義の終わる頃には多少なりとも現代美術論を語れるようになっていくことやら？最後に冒頭の答え、究極の穴の数が①②③が0、④⑤が1、⑥が2あることで括れるとのことでした、よくお考えください。なお急須の把手は穴の空いたものです。(Y)

佐藤 壮広先生

「歌が照らす人と社会」

ギター片手に佐藤先生登場。持ち歌の「非常勤講師ブルース」が教室に流れ、自然に手拍子が鳴り、不思議な雰囲気での授業が始まります。

41歳の先生が平均年齢60歳？の受講生を前に人生の機微を語ります。時には水割り、冷酒、焼酎、ジュースと受講生の人生に合わせて自由自在。「神田川」は実は闘う男の歌だった。



はてなマークが頭をかすめる中、受講生の様々な人生観をまじえた意見が飛び交います。「ゴンドラの唄」は、列車でしのぶ母の人生、「赤とんぼ」は、5歳で別れた母を待つ歌。歌を聴き、解説を聞き、意見を出し合って、アッという間に90分が過ぎていきます。「阿吽の呼吸」「察しあう」世代の我々には、異次元の体験です。先生も未体験の授業を手探りで続けます。雑談ではない、語り合いの授業、段々先が見え、広がり、新スタイルの授業が出来上がっていきます。共感と連帯感の輪が広がり、枠にとらわれない授業に受講生は不思議な満足感を味わっています。(S、S)

森 良先生

「自分を地域に活かす」

新しい地域づくりを目指して

森先生の授業は、ぶれないミッションと参加型学習により、説得力があります。先生はこれまでに自然教室のボランティア、環境教育のNPO-ECOMの立ち上げ、一人一人が主役で元気な地域づくりなどの活動に取り組んでこられました。紆余曲折した人生を大いに楽しみ、体を張ったパワーを感じることができます。



現在先生は「環境教育の普及、市民参加の促進、行政、企業、大学、NPOとの連携、アジアとの草の根交流、そしてコミュニケーションの活性化」などの推進に尽力されています。2007年11月に地元池袋に気軽に「話を聴く、引き出す、つなぐ」、縁側のような「地域サロン」を立ち上げました。また、東武東上線の池袋と埼玉を結ぶ地域の良さを再発見する「グリーンツーリズム」(都市と農村の交流)などを通して持続可能な地域づくりを模索しておられます。この授業は体験を学び生活に活かすといった「体験の重み」について考えさせられる時間となっています。(U)



サポートセンター設立

立教セカンドステージ大学(RSSC)は、本科生・専攻科生はじめ卒業生が、自主的に「学び直し」と「再チャレンジ」を目的とする活動や、社会的に意義のある調査研究活動等を希望する場合に、その「場」を提供することを目的として、2009年4月に「立教セカンドステージ大学サポートセンター」を設立しました。

特に、卒業生が引き続きキャンパスを自由に訪れ、仲間たちとこうした活動を通じて、セカンドステージを楽しく有意義に過ごしていただくことは、RSSCの社会的責任の一環であると位置づけています。

現時点では、既に次の7件の研究会がスタートしましたので、いつでも多くの参加者をお待ちしています。

- ①「過疎地域の活性化・まち起こし支援研究会」
- ②「アジアの貧困とNPO/NGO支援研究会」
- ③「セカンドステージ生涯学習研究会」
- ④「RSSC読書会」
- ⑤「公開講演会等広報活動支援プロジェクト」
- ⑥「かがやきライブ研究会」
- ⑦「海外異文化情報研究会」

今後とも自発的に多くの研究会ができることを期待しています。(RSSC事務局記)



読書会

同窓会の設立

立教セカンドステージ大学(RSSC)の在校生並びに卒業生、および、大学関係者のうち、会費を納めて会員になった方からなる同窓会を、2009年4月に設立しました。

この同窓会は任意団体であり、入会された会員相互の交流と親睦を図るとともに大学の発展に寄与することを目的に掲げています。

既に第1期生96名の94%が加入され、その運営のために、会長、副会長、各種委員会委員長(財務・会計委員会、総務委員会、事業委員会、サポートセンター支援委員会)で構成する幹部会を組成し、各種委員会の委員と共に、楽しく有意義な事業活動を展開しています。

例えば、今年度は同窓会通信網の確立、同窓会メルマガの配信、同窓会清里合宿、公開講演会の協力等を行い、また、同窓生同士が適宜下町散策、山登りの会、ゴルフ同好会、グルメ会、ホームカミングデー出店支援等を開催し旧交を温めています。更には、RSSCの組織であるサポートセンターの活動を側面的に応援する体制を整えています。

皆様には是非このような同窓会の会員になっていただき、多くの同窓生同士で末長いお付き合いをされることを願っています。(同窓会総務記)



同窓会総会

2009年度 年間スケジュール

今年度の主なスケジュールは下表のとおりです。

2009年									2010年		
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
前期授業				夏季集中講義			後期授業				
ウェルカムパーティ			納涼パーティ		夏季合同ゼミ合宿		ホームカミングデー	クリスマスパーティ	修了論文提出	修了報告書提出	フェアウェルパーティ

専攻科の紹介

本科（1年）修了後もさらに深い研究を続けたい受講生のために、専攻科（1年）があります。今年度の専攻科の基本的なコンセプトは、立教大学大学院研究科（社会人向け大学院）と同じように、ゼミナール（必修）に所属して担当教員の個別指導の下、修了論文（16,000字以上）を作成することを中心に、専攻科科目と選択科目・全学共通カリキュラム科目（全カリ）が受講できる（原則単位は付与せず）というものでした。また、今年度の専攻科の試験は、①本科で修了報告書（12,000字以上）を含む18単位以上を取得し修了すること、②筆記試験（800字）を受けること、③所定の研究計画書（1,600字）をベースに面接を受けることでした。

来年度の専攻科のコンセプトは、基本的には今年度と同じですが、受講する科目についてはインセンティブの観点から単位を付与し、ゼミナールと修了論文および専攻科必修科目と選択科目・全カリを含む14単位以上を取得することが修了条件になります。但し、試験方法は面接がなくなります。

今年度は、本科修了生96名のうち47名が専攻科に進学しましたが、来年度も今年度に引き続き多くの進学希望者が期待されます。（RSSC事務局記）

専攻科に学んで

笠原ゼミ 専攻科 関 守男

入学して学んだことは沢山ありますが、そのうちの一つは「自分次第」ということでした。大学では自由に自分のスケジュールを組み立てて行動することができる分「自分次第」という面が強調されるのです。「自由」といえば、サラリーマン当時は自由を欲していたのに、いざ自由を得ることができた時には、真に自由を体感することの難しさを痛感しました。大学に入学して、学びという目標を得ることができて有意義でした。



入学して学んだことの、もう一つは本科での初回のゼミの折でした。私が入学理由を「教養を高める為」と発言したところ、先生は「自分の中に自分を見る、もう一人の自分を持つことが教養。教養の意味を取り違えてはいけない」といきなり指摘され、その「先生パンチ」は私のボディにズシと食い込みました。しかし同時に気持ちがスッキリしたのを覚えています。私が考えていた「知識を積むこと」がすなわち教養ではなかったのです。

この二つのキーワードを基に過ごした大学生活は、多くの貴重な経験と発見、そして自由を満喫することができた2年間でした。一緒に学んだ受講生の皆さんと、機会を与えてくれた立教セカンドステージ大学に心から感謝いたします。

Bangladesh 障害者施設を訪ねて

庄司ゼミ 専攻科 増田 忠雄

WHOや世界銀行の推計では、世界の人口の10%（6.7億人）が障害者であり、そのうち80%（5.5億人）が開発途上国で生活しています。世界で12億人と言われる貧困層の人たちは同時に障害を抱えており、障害を抱えているために貧困から抜け出せないのです。途上国の障害者問題の研究のため、Bangladeshを訪ねました。首都ダッカより北へ200km、農村部のマインソン県にある知的障害者施設「ブッシュ・ポニール」と「アッシュ・ニール」を訪問しました。障害児たちは言葉での表現が少なく、しっかりと抱きしめられることが大好きです。月1回開催される「喜びの光」の行事では、地域で暮らす障害者の家族の人たちと一緒に、歌や踊り、シェアリング（親たちだけの話し合い）、昼食会とこれらのプログラムを通じて色々体験しました。同じ地球上で生きている仲間は、助けて欲しいことはあっても、可哀想とは思って欲しくないというプライドを持っています。この仲間たちのために、自分に何が出来るのか、また何をすべきなのか、私の挑戦は続きます。



戦争文学を読む

千石ゼミ 専攻科 若木 京子

退職してすぐに本科に入り、長い職業生活で拘束され疲れていた頭が、少しずつ元気になりました。就職や成績のためではなく、自分の関心だけで授業を受け、本を読み、レポートを書くというのは、訓練する機会の少なかった私には大変でしたが、新鮮な経験でした。本科の報告書は、初めて読んだ小島信夫の『うるわしき日々』についてまとめました。それ以来、小島信夫の戦争小説が気になって、専攻科で探究したいと思っていました。



しかし、千石ゼミでの助言や「戦争文学全集」を買ったこともあって、途中から戦争小説全般を読み始めました。日露戦争時の『肉弾』から、ベトナム戦争を書いたバオ・ニンの『戦争の悲しみ』まで、ストーリーを追いました。歴史の表面に出てこない兵士の悲鳴が響くようで、重苦しい題材です。専攻科に進む事がなければ、これだけエネルギーをかけて読むことはなかったでしょう。いままで避けて通ってきた戦争ですが、理解するいい機会でした。

千石ゼミの他の人の話を聞いて、映画や美術にも関心が広がりました。いろんな人生を生きてきた人と対等な立場で学び、知りあった事は大きな励みになりました。

W杯サッカーの感動を後世に

坪野谷ゼミ 専攻科 安元 眞之

38年間のサラリーマン生活最後の仕事で、2002FIFA-W杯日韓大会の担当でした。この大会で得た体験、感動を論文にまとめ後世に伝えたく立教セカンドステージ大学へ入学しました。



本科では、「企業とスポーツ・スポンサーシップ」を考察すべく、Jリーグクラブのユニホーム（胸）スポンサーの地域社会貢献の意識調査を取り上げました。1年間では書き足らず専攻科へ進学し、「スポーツによる地域社会貢献」と題して、Jリーグクラブの地域社会貢献の実態を考察しました。

本科、専攻科の2年間で調査した資料、集めた文献および体験から得たアイデア等をすべて吐き出し、論文にまとめることができました。自画自賛のライフワークの完成です。

今後は2年間の大学生活で得た知識と2つの論文を基に、社会で実践し役立てたいと考えています。

少しでも社会の役に立てば本望であり、専攻科に進学したことが生かされるものと思っております。

~~~~~

## 立教セカンドステージ大学を通して

北山ゼミ 専攻科 室伏 義郎

想えばチャペルでの厳かな本科入学式にて、賛美歌を歌いながら見渡すと、みんな年長の同輩と映りました。ゼミの仲間も初対面の印象を「なんて自分は年寄りの中へ入ってきたのだろうか」と語っていました。しかしこれはつかの間の杞憂に終わりました。授業が始まる頃には全員心の活力を取り戻し、青春返りを始めたのでした。先人の言葉『青春とは心の若さである。信念と希望にあふれ勇気にみちて日に新たな活動をつづけるかぎり青春は永遠にその人のものである』が思い返されてきました。



30年振りの池袋地下ホームでは度々、迷子になりましたが今では体が自然に大学に向かわせてくれます。大学の赤レンガの佇まいが視野に入ってくるとわくわくします。キャンパスに流れる光と風が一年半の歳月を通して、私の精神にすっかり馴染みました。ゼミでは、教授の何気なく話される含蓄のあふれるエスプリを、毎回愉しんでおります。昨年のゼミの先輩淑女が『個性派ぞろいのゼミ生に先生はご苦労されたと思いますよ』と私に伝えてきました。本年も然りと、北山ゼミの伝統となりそうです。

大学は学びの場と自己啓発の契機を用意してくれました。この学びをどの様に活かし実践していくかが課せられた課題と日々考えております。

## RSSCという新設航路に乗船して

上田ゼミ 専攻科 市村 恭子

「学ぶこと」「仲間との時間」「チャペルの賛美歌」全てが、豊かさに包まれた穏やかな青い海と静かな波の続く航海でした。そしてその航海をもう少し続けたいと専攻科という展望台に上がり、ゆっくりと周りを見渡すことができました。そこで一つ明らかになったことがありました。



「遊ぶことは楽し、共に楽しめる仲間がいることはさらに楽し。されど・・・それだけでは」という思いです。

今、帰港の途につき、船出のわくわくするような感動を思い出しながら、下船の準備をしなければいけない時が近づいていることを感じています。

下船後は、平和な時はその場に安住し、忙しければその時に忙殺されてしまう自分を励まししながら、自然体で生きていこうと思います。

そして様々な事情を抱えた目の前の人や未来の社会に自分の時間を割いていける余裕も持てる日々を送りたいと思います。

~~~~~

専攻科に学んで

佐野ゼミ 専攻科 渡辺 純子

誰しも、今後起こりうる老人特有の病気を予防しながら健康で元気な老人を目指すことが願望です。

つまり心とからだの健康づくりを基本に健康行動の実践が大切です。

専攻科では、本科で学んだフィールドワーク技法（文化・自然・高齢化データの分析等）や健康づくりの実践をしているNPOなどの実態を観てきたので、私自身としてより深い理論と実践を今後続けたいと思っています。



具体的には地域活性化の体験と学びを「東京都中央区健康福祉祭り」に参画し、健康づくり技法と企画、NPOの仲間づくり方法をいま実践しているところです。またこの体験を通して、都市の農業を守り育て、自然に対する関心の高さにも驚きました。中央区では、屋上の花壇推進運動やミツバチを飼って自然の蜜の拡販運動をしているプロジェクトに、若者や多くの人たちがそれぞれの力を持ちよっている元気な方々とお目にかかり力をいただく場面もあります。健康づくりは、生きがいをもって活動し都会でも自然との共生があり、緑はさわやかで健康には最適です。今後の「健康づくり」課題は、地域社会で健康支援者として健康予防活動をさらに深めることの大きさを痛感しています。

立教キャンパス散策

【新座キャンパス】

新座キャンパスは、1990年、都心の喧噪から離れた埼玉県新座市に開設されました。東武東上線志木駅又はJR武蔵野線新座駅からスクールバスで約5分の至便なところに在り、街・自然と共生する典型的な地域密着型キャンパスです。正門正面の木々の緑の中



に屹立する白亜のベルタワーとチャペルがシンボリックです。講義棟・事務棟・図書館・食堂等の施設は、それぞれが機能的に設計されかつ適度な集中配置となっていて、教職員や学生にとり利便性に富んでいます。2006年に、武蔵野の面影を残す樹木と10数棟に及ぶ各種施設を含む広大なキャンパス全体が、建築・環境デザイン部門でグッドデザイン賞を得ています。この恵まれた環境の中で現在、観光学部・コミュニティ福祉学部・現代心理学部の3学部にて4500余名の学生が学んでいます。RSSCの受講生は、全学共通カリキュラムの特定科目を選択することにより、このキャンパスで受講できます。(H)

【立教学院発祥の地】

明治7年、築地の外国人居留地付近に生徒数名で開校された立教学校が、立教大学の始まりです。池袋キャンパスを離れ、発祥の地を訪ねてみました。

銀座「松屋」横の銀座マロニエ通りを隅田川の方に20分程歩くと隅田川手前で聖路加国際病院、聖路加タワーなどのある聖路加ガーデンに突き当たります。その一角、聖路加看護大学の敷地内にスウェーデン産の黒御影石で作られた立教学院発祥の地の碑が散歩道の脇にあります。碑には、

『1874 C.M.ウィリアムズ主教立教学校を開く
「すべての人に仕える者になりなさい」聖マルコによる福音書第9章35節』



と刻まれています。

この付近は外国人居留地だったことから、立教女学院などいくつかのミッションスクールもここから始まっています。現在、一帯は「歴史と文化の散歩道」が設定されていますので、ウィリアムズ主教の理想に思いを馳せながら、立教大学を始め各学校の発祥の地、隅田川テラス、近くの築地市場などを巡る「歴史と文化と食」を楽しむ散策に出掛けてみませんか。(S)

ホームカミングデー

立教セカンドステージ大学佐野ゼミと上野原市西原地区活性化研究会がブースを出店しました。佐野ゼミでは「地域が元気になる農山漁村」を研究テーマとし「都市生活者から見た戸田の魅力再発見」を掲げて「NPO法人戸田塩の会」の活動や沿津市戸田地区の景観・歴史・文化遺産の魅力を紹介しました。地域の名産品の試食・販売があり「農山漁村の幸」がたっぷり入った汁が体を暖め、自慢の山菜おこわや赤飯の美味しさを堪能する人々の笑顔が素敵でした。また、特産のタカアシガニの甲羅を活用したお面作りの体験コーナーでは、童心にかえて絵筆をふるう受講生の姿が微笑ましかったです。



現地のスタッフと共に両地域の素晴らしさを伝える活動が出会い・ふれあい・元気と感動をもたらしました。(A)

クリスマスパーティ



12月10日キャンパス内の太刀川記念館でクリスマスパーティーが催されました。「セカンド

ステージ大学で学んだことを今後の人生に役立てて」との笠原先生のお話と武藤チャプレンに導かれてのお祈り。引き続き、立教大学軽音楽部による素敵なクリスマスソングメドレー、楽しいビンゴゲーム、美味しい食事。

先生方やみんなとの心弾むおしゃべり。そしてフィナーレは、みんなで腕をくみあって大きな輪になりギター演奏にあわせての大合唱。本科生クリスマス委員会



の尽力によるパーティーは大成功です。素晴らしい思い出がまたひとつ増えた心温まる夜でした。(O)

編集後記

立教セカンドステージ大学創立と同時にスタートしたこのニュースレターも今回で早4号を数えることとなりました。この一年を振り返りますと、我々広報委員も素人の集まり、不安な気持ちでのスタートでしたが、全員協力のもと、本号完成にこぎつけることが出来ました。苦勞を共にした絆は今後更に強いものにしていきたいと思っています。最後にご指導頂きました諸先生、原稿に協力頂きました皆様へ心からお礼申し上げます。(H)

◆広報委員会スタッフ

【本科】浅賀はるみ 浅野正和 麻生恵美子 阿部ヨシ子
新井優雅 上田政義 宇田川正昭 大庭由紀子 岡田純子
片柳哲也 金子三郎 清岡肇 熊田正弘 小林純代
斎田豊子 酒井広 島田一郎 鈴木光枝 相馬志美
高橋庸子 永井慈子 橋詰正孝 原田信市 平澤真由美
深瀬治則 淵上淳乎 峯川忠之 山崎郁夫
【専攻科】岡崎曠敬 増田忠雄 若木京子